

# 第1回 校内研究職員会

R6. 5. 7 (火)

研究担当 三島 能海

## 未来を切り拓く、心豊かでたくましい知夫の子どもを育成する

自ら学ぶ子ども 共に生きる子ども たくましく生きる子ども ふるさとを愛する子ども  
(創造) (共生) (自立) (愛郷)

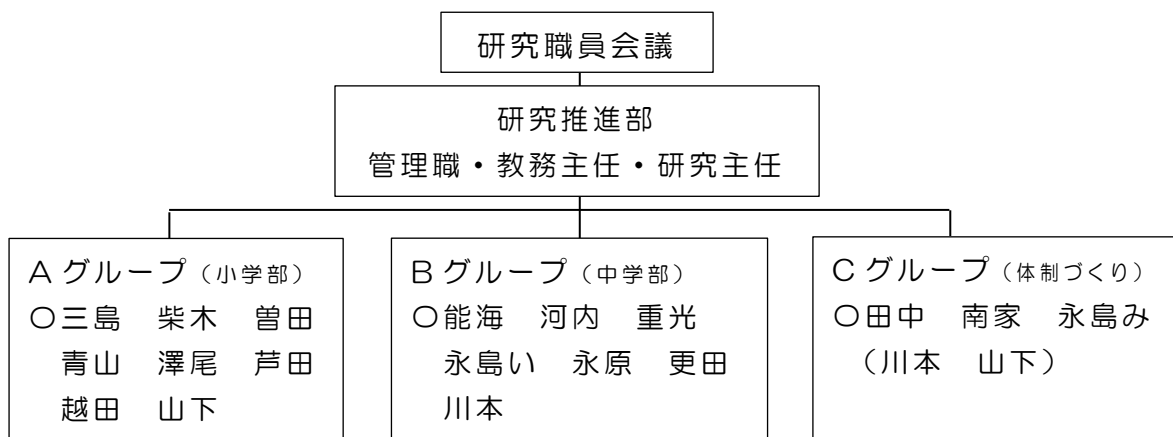
### 1. 校内研究のねらい

- 学校教育目標の実現と教育課題の解決を目指し、全教職員で計画的・継続的な授業実践と振り返りを積み重ね、日常の教育活動に生きる研修に努める。
- 授業や日々の実践について語り合い、学び合い、相談し合える研究体制を構築し、互いの指導力を高め合える協動的な校内研修を進めていく。

### 2. 研究の進め方

- 目指す子どもの姿や、研究仮説について、全教職員で実践をすることで検証する。
- 研究授業や日々の授業において、仮説に基づく授業実践と振り返りを積み重ねる。→ 児童生徒の学力と教職員の指導力アップへ。
- 部会研究や経験者研修、派遣指導主事訪問等の機会を、互いの研修・研鑽の場として活用する。
- グループを活用した研究体制を構築し、互いに連携しながら、全教職員による校内研究参加体制を整える。
- 校内研修、出前授業、指導主事による授業づくり研修など、教職員の研修の場を設定する。
- 今年度の研究の成果と課題をまとめ、次年度の実践へつなげる。

### 3. 研究組織



#### 4. 研究内容及び研究教科

##### (1) Aグループ(小学部)

###### ☆研究主題・副題

課題の解決に向かい、児童の「分かった・できた」を生み出す授業づくり  
～ICTの効果的な活用を通して～

###### ☆めざす子ども像

課題解決のために、ICTを効果的に活用することで、学習のねらいに迫る知識や技能を身に付けることができる子ども

###### ☆研究の目標

児童生徒がめざす子ども像の実現に向け、授業における具体的方策や教師の支援のあり方について研究仮説を立案し、実践を通してそれらを検証する。

###### ☆研究仮説

次の手立てを講ずれば、児童が「課題解決のために、ICTを効果的に活用することで、学習のねらいに迫る知識や技能を身に付ける」ことができるだろう。

※R6年度は本研究主題の初年度であるため、主に、【教職員】に関わる部分に重きを置いて進めることとする。

###### 【教職員】

- ①発達段階に応じたICT活用スキル系統表の作成と見直しを行う。
  - 小中のメディア担当と連携しながら、9年間を意識した系統表の作成を行う。
- ②教職員個々のICT活用スキルの向上を図る。
  - 児童の実態に即した、全校共通のコミュニケーションアプリを検討する。  
→(案)「ロイロノート」
  - 外部講師によるICT活用技術向上のための研修を行う。
- ③ICT活用に適した授業づくりの検討を行う。
  - R6年度に提案授業を1回(学年未定・指導案検討と授業協議を含む。)を行い、R7年度とR8年度には、各学級で実践できる準備をする。

###### 【児童】

- ①ICT活用スキル系統表に沿ったスキルを習得する。
- ②全校共通のコミュニケーションアプリの使い方を知り、授業の中で活用する。

###### ☆検証方法

以下について、年度初めと比較し、

①は「全国・県平均以上」または「前回以上」、②③は「前回以上」で仮説は立証されたとする。

仮説検証方法	担当	時期	方法
①県、全国学力調査結果 単元テスト結果	担任	(調査) 4月→12月 (単元テスト) 4月→1月	前後比
②児童の発言や記述の変容	授業者	随時	前後比
③教職員に向けてICT活用に関する意識調査	研究主任	4月→1月	前後比

## (2) Bグループ(中学部)

### ☆研究主題・副題

探究的・協働的に学び、効果的に表現する生徒の育成  
～地域に学ぶ「総合的な学習の時間」の授業づくりを通して～

### ☆めざす子ども像

- ・明確な手段・方法を持ち、多様な他者と協働して課題を解決する生徒
- ・相手や目的に応じて、より効果的に自己の考えを発信する生徒

### ☆研究の目標

めざす子ども像の実現に向け、授業等における具体的方策や教師の支援のあり方について研究仮説を立案し、実践を通してそれらを検証する。

### ☆研究仮説

次の手立てを講ずれば、「探究的・協働的に学び、効果的に表現する生徒」を育成することができるだろう。

## 手立て

### I 学習計画の見直し

…生徒にとって必要感があり、実態に沿ったものとする。  
学年の系統性を持たせる。

### ①総合担当、ふるさと教育担当(能海)

○テーマ「地域に学ぶ」 ※「地域」を「ふるさと」にするのかは要相談

- 1年 地域を知る →島留学生の有無により内容に軽重をつける。  
→地元の生徒はリトルティーチャーの役割をする。
- 2年 地域で働く →島前で2回の「課題解決型職場体験学習」をする。  
→学習の成果をプレゼンしたり、冊子にまとめたりする。
- 3年 地域に貢献する  
→地域の方と協働し、地域の取り組みの一端を担う。

### ②3年部

○修学旅行実施年度の時間配分と内容の見直し

### II 授業づくり

#### ①探究サイクルの継続的・発展的な繰り返し(主題における「探究的」)

- ①「課題の設定」
- ②「情報の収集」
- ③「整理・分析」
- ④「まとめ・表現」

必要に応じて、①～④の順番を前後させたり、1つの活動の中で複数のプロセスを一体化して同時に行ったりする。また、サイクルを何度も繰り返し、高めていくこともある。生徒による学習の振り返りから、これを生徒自身が決められるよう支援していく。

## ②多様な他者と協働して課題解決する場の設定（主題における「協働的」）

### 協働する他者

- 同学年・異学年の生徒                      ○担当の教員
- 以下に関わる方々
- 観光    ○畜産    ○漁業    ○福祉    ○自然    ○伝統文化    ○行政    ○教育等

### 課題解決学習の流れ

#### 1年「地域を知る」

- ①話を聞く
- ②体験する
- ③地域のよさと課題を見極める
- ④課題に対する解決策を出す  
(⑤実践してみる)
- ⑤伝える

#### 3年「地域に貢献する」

- ①話を聞く（体験する）
- ②協働する相手と内容を決める
- ③課題を見極める
- ④課題に対する解決策を出す
- ⑤実践する
- ⑥評価する
- ⑦伝える

## ③相手や目的に応じて表現をする場の設定

### （主題における「効果的に表現する」）

○表現する場と相手を複数設定し、その都度、効果的な表現を考え、実践し、振り返る機会を作る。明確な評価基準（※要相談）を設け評価するとともに、聞き手の評価や感想もフィードバックし、表現力の向上につなげる。

### 相手

- ・保護者                      ・協働する方々                      ・村民（地域の行事等で）
- ・他地域の中学生（オンライン）                      ・島前高生
- ・来年度の島留学希望生と保護者                      ・島根県民（1年生 新聞コンクール）

## ☆検証方法

以下について、前年度や年度初めと比較し、

- ①「全国平均以上、昨年度以上」
- ② ③「昨年度以上、前回以上」で仮説は立証されたとする。
- ④⑤は評価規準を明確にして評価する。

仮説検証方法	担当	時期	方法
① 県、全国学力調査 【思・判・表】記述内容・結果	各教科 担当	3年 4月→12月 1年 昨年度→12月	前回比 前年度比 外部評価
② 習熟度テスト 【思・判・表】記述内容・結果		3年 年5回 1年 7月、12月、3月	
③ 単元テスト 【思・判・表】記述内容・結果		随時、5月→2月	
④ 発表資料・発表、新聞	全教員	発表会？月、新聞 12月	
⑤ 生徒の説明の変容		随時、5月→2月	

## 5. 指導案審議と授業公開・研究協議について

○グループで審議・全体 or グループで協議を行う。

《参考》

### Aグループ 他研修等との兼ね合い

- ・越田、澤尾…初任者研修
- ・曾田…フォローアップ研修
- ・三島…社会科部会（11月全小社研発表）

### Bグループ 他研修等との兼ね合い

該当なし

## 6. 今後の予定

5月 7日…第1回研究職員会議	：【全体会】研究概要確認、各グループ打合せ
5月27日…第2回 //	：
6月24日…第3回 //	：
夏季休業中	：【小学部】ICT活用研修？
9月 2日…第4回 //	：
10月21日…第5回 //	：【全体会】三島先生 発表リハ？
11月25日…第6回 //	：
1月20日…第7回 //	：
2月17日…第8回 //	：
3月 3日…第9回 //	：【全体会】学力調査分析、校内研究のまとめ (各グループ報告)

## 7. 校内研究担当より

☆校内研究においても小中一貫校の強みを活かしていきましょう。

○小・中の教科の系統性を、お互いに勉強し合いきましょう。

○授業や子どもを見合える環境であることを前向きに考えましょう。

授業公開、日々の乗り入れ授業や全校での取組、日常のあらゆる場面に互いを見合える場面は転がっています。

○教職員全員で、9年間の児童・生徒の成長を支えていきましょう。